

## 商学部 教授 太田和博 Kazuhiro Ohta

秋深まる 1996 年 11 月、アイオワ大学でカズオ・イシグロの講演会を聴いた。欧米では、新出版の PR として書店などで朗読会が催される。日本では単なるサイン会なのだが、著者が自ら新作の一部を朗読するのである。その時イシグロは、第 4 作である『充たされざる者』の PR でアメリカを回っていた。

長編小説 7 冊のみ、62 歳の若さでのノーベル文学賞の受賞は快挙である。初めの 2 作は日本を舞台にしているが、第 3 作の『日の名残り』は第二次世界大戦前後の英国貴族に仕える執事の話である。『日の名残り』は、イシグロが日本人として生まれたことから離脱し、英国人になった証である。逃れられない運命の下に生きる真摯な人々をテーマとし、それ以降の作品では、国籍も時間も現実性も関係ない設定がなされている。

私はカズヒロなので、同じ「カズ」である。カズオはどう書くのかと尋ねたら、知らないと答えた。実は、一雄であり、分らないわけではない。当時 42 歳の彼は、日本人として生まれたことを否定しようとしていた。遺伝子的には純粋な日本人であるが、英語を話すうちに口・顎のラインは変わるし、環境がなせる業であろう目つきが鋭くなっていた。雰囲気、否、風貌すら、日本人ではなかった。彼は戦っていたのである。それから 20 年、イシグロは、両親が日本人であり、子供の頃の長崎の思い出を自然に語る。

『日の名残り』は映画化された。図書館で DVD を観ることができる。



日の名残り / カズオ・イシグロ著 ;  
土屋政雄訳 早川書房, 2001.5  
(ハヤカワ epi 文庫)

本 館 K/933/I73  
神田分館 /933/I73



日の名残り / ジェームズ・アイヴォリー監督 ; アンソニー・  
ホプキンス [ほか] 出演 コレクターズ・エディション.  
ソニー・ピクチャーズエンタテインメント (発売), c2002

本 館 V/778/H61  
神田分館 V/778/H61

